

大日本帝國駐鉄領事酒匂

派駐鉄嶺交涉局局長謝祖元

中華民國五年四月二十三日

(附屬書二)

写第貳号

敬再啓者三江口案弟忝為一邑之長未能先事預防耿此衷今

猶歉仄幸荷

貴領事明達賜為

照弘五衷銘感寔匪言喻緬

有容之雅度益抱愧於微官尚望

時錫南箴以匡不逮是所至禱專此鳴謝即請

台安諸維

亮察

弟仁再頓

(附屬書三)

写第參号

逕啓者三江口一案前奉

駐鉄交涉局來函悉已了結查出事地方与敝県係属接壤緝凶捕

盜未能襄助鄰封寔深歉仄並荷

貴領事誼重睦鄰以公道之持平全微官於罷斥私衷感頌莫可名

言特肅專函用鳴謝悃敬問

履福即請

台安

程道元頓首

~~~~~

附 南滿洲鐵道沿線守備隊ニ関スル件

八一七 五月一日 在鉄嶺酒匂領事代理ヨリ  
石井外務大臣宛

日本軍隊ノ行軍演習ニ関シ請訓ノ件

機密第二九号 (五月九日接受)

大正五年五月一日

在鉄嶺

領事代理領事官補 酒 匂 秀 一 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

昌図駐屯我獨立守備中隊ニ於テハ客月二十五日馬仲河駅ヨリ野外演習空砲発火演習ヲ為シ昌図城内ニ至リタルニ支那側ニ於テハ本件ニ就キ何等予告ヲ受ケ居ラサリシ為メ狼狽

シ通訳及巡警ヲ同地我警察官出張所ニ派シテ其來昌ノ用件等ヲ問合セタル趣ニ関シ別紙写ノ通り同地駐在我警察官ヨリ報告有之候右ハ守備隊側ヨリ当方ヘモ何等申出ナカリシニ付支那側ヘモ知照セザリシ次第ニ有之候ヘ共從來当地地方ニ駐屯スル我陸軍各部隊ニ於テハ別表ニ示ス如ク鉄道附属地外ニ行軍演習ヲ施行スルコト尠カラス而シテ或時ハ其実施期日ニ差迫リテ支那側ヘ知照方申出ツルコトモ有之候処当方ニ於テハ今日迄軍隊側ヨリ此種申出アル際ハ直ニ支那官憲ニ知照シ支那側ヲシテ關係地方官民ニ周知セシメ誤解ナキ様力メシムルト共ニ出来得ル限り便宜供与方ヲモ取計ハシメ居リ候為メ近來ニ於テハ幸ニ大事件ヲ惹起不致候ヘ共頻々之ヲ施行スルニ於テハ行軍隊ノ經過地方支那官民ハ我威力ニ顧ミ後難ヲ慮リ表面好意ヲ以テ迎フルカ如キモ内心迷惑ヲ感シ居ル向モ有之哉ニ被窺候將又斯ク頻繁ニ之ヲ施行スル間ニハ自然不測ノ事端ヲ發生スルコト無之ヲ保シ難ク從來時々実例ヲ見タル処ニシテ申ス迄モナク彼我ノ為メ遺憾トスル処ニ有之候乍併政府ノ御方針トシテ出来得ル丈多ク此種行軍演習ヲ実施セラルモノナリトスレハ別ナルモ客臘廿七日附政機密合送第一九〇号滿洲ニ於ケル自働

車運行試験実施ノ件乃至本年一月廿四日附政府機密合送第七号滿洲ニ於ケル飛行機試験実施ノ件ヲ以テ御来示ノ次第ニ依レハ其実施区域ヲ鉄道附属地内ニ限定セラレントスル御趣旨ニ了解セラレ旁行軍演習ノ如キモ附属地外遠隔ノ地方ニ亘ルコトハ差控ヘラルル御趣旨ニ非ズ哉ト被思考致候果シテ然リトセハ將來此種行軍等実施ニ関シ我軍隊側ヨリ支那側ヘ知照方申出有之候際ニハ小官ニ於テ從來ノ通り其儘之ヲ支那側ニ知照方取計差支可無之哉小官心得迄ニ御趣旨ノ存スル処ヲ御指示相成様致度尚又我行軍演習實施ニ関シ客年一月十三日發行ノ奉天公報上特派奉天交涉員署ノ派令ヲ以テ我方ヨリ支那側ヘノ予告期日ヲ約十日ト定ムル旨等ニ関シ掲載有之候処右支那側トノ打合事實ニ関シテモ併セテ御回示相成様致度此段及請訓候 敬具

(別紙)

写

大正五年四月廿五日

昌図警察官吏出張所

巡查 中河吉之助

鉄嶺領事館警察署長 上田 統殿

守備兵行軍来昌ノ件報告

鉄昌図駐屯独立守備中隊安達中尉ハ下士以下兵卒六十余名ヲ引率シ馬仲河駅ヨリ行軍シ野外演習空砲発火演習ヲナシツツ本日午前十一時当所ニ来リ昼食ノ後午後一時出發市中行軍シ市外ヨリハ更ニ野外空砲発火演習ヲナシツツ鉄昌図

ニ向ケ帰隊致シ候  
支那目下時局ノ際及道尹滞在中ナルニヨリ支那官憲ニテハ狼狽シ通訳及巡警ヲ当所ニ派シ其来昌ノ用件出發時刻等間合セ漸ク安堵セシ有様ニ有之候

(別表)

当館ヨリ支那側ニ知照セル主ナル我軍隊行軍演習件数

(一)

(大正四年一月以降)

| 行軍演習<br>実施軍隊名 | 実施月日             | 経 過 地 方                                                       | 経過県別          | 備 考             |
|---------------|------------------|---------------------------------------------------------------|---------------|-----------------|
| 開原駐屯独立守備第二大隊  | 自一月廿四日<br>至同 廿八日 | 開原附屬地出發、通江口(一泊)、法庫門(一泊)、通江口(一泊)、金家屯(一泊)、昌図附屬地ニ帰ル              | 開原、昌図、法庫、各県   | 歩騎兵ノ一部ヲ以テス      |
| 鉄嶺駐屯隊         | 自一月廿六日<br>至同 廿九日 | 鉄嶺出發、北高台子、烏巴海(一泊)、桜桃溝、十間房、法庫門(一泊)、頭台子、柏家溝、通江口(一泊)、桑撒子、王家窩棚、帰鉄 | 法庫、鉄嶺、昌図、開原各県 | 歩兵ノ一部途中空砲発火演習施行 |
| 独立守備第二大隊      | 自二月九日<br>至同 十日   | 開原附屬地出發、慶雲堡、古城堡(一泊)、新安堡、馬千總台、開原附屬地ニ帰ル                         | 開原各県          | 歩兵ノ一部行軍演習       |
| 同             | 自二月十二日<br>至同 十三日 | 開原附屬地出發、開原城、城子勾、大營盤(一泊)、一道溝、開原附屬地ニ帰ル                          | 開原及昌図各県       | 同               |
| 同             | 自二月十五日<br>至同 十六日 | 開原附屬地出發、南台、石家堡、尚陽堡(一泊)、趙家屯、小台子、九社、開原附屬地ニ帰ル                    | 同             | 同               |
| 同             | 自二月廿三日<br>至同 廿四日 | 開原附屬地出發、王大樹、新家屯、尚楊堡(一泊)、石家堡、南台開原附屬地ニ帰ル                        | 同             | 同               |

|          |                  |                                                               |            |                  |
|----------|------------------|---------------------------------------------------------------|------------|------------------|
| 鉄嶺駐屯隊    | 自二月廿四日<br>至同 廿七日 | 鉄嶺出發、蘇家屯、横道河子、舍元堡(一泊)、撫順、千金寨(一泊)、高家灣、石台子、清水台(一泊)、懿路、遼海屯、鉄嶺ニ帰ル | 鉄嶺、撫順、遼陽各県 | 歩兵一部行軍途中空砲発火演習施行 |
| 独立守備第二大隊 | 自二月廿六日<br>至同 廿七日 | 開原附屬地出發、大山崗堡、孟家寨、馬家寨(一泊)、金家寨、梅家寨、開原附屬地ニ帰ル                     | 開原各県       | 歩兵一部行軍演習         |
| 鉄嶺駐屯隊    | 自八月廿二日<br>至同 廿二日 | 鉄嶺出發、黑家屯、新屯、開原附屬地附近(一泊)、大爪台子、中固、平頂堡、鉄嶺ニ帰ル                     | 開原及鉄嶺各県    | 歩兵一部行軍演習         |
| 同        | 同                | 鉄嶺出發、平頂堡、中固、大孤台子、開原附屬地附近(一泊)、大孫家台、大山崗堡、洲河堡、中固、平頂堡、鉄嶺ニ帰ル       | 同          | 同                |
| 駐鉄旅団連合演習 | 自十月八日<br>至同 十五日  | 鉄嶺ヨリ開原ニ至ル鉄道沿線附近(八泊)                                           | 鉄嶺及開原各県    | 同                |

(12)

(大正五年一月以降)

| 行軍演習<br>実施軍隊名 | 実施月日             | 経 過 地 方                                                        | 経過県別           | 備 考                        |
|---------------|------------------|----------------------------------------------------------------|----------------|----------------------------|
| 独立守備第二大隊      | 自一月十八日<br>至同 廿四日 | 開原附屬地出發、南城子(一泊)、柳鹿(一泊)、大疙疸(二泊)、平崗(一泊)、葉赫站(一泊)、四平街附屬地ニ帰ル        | 開原、西安、伊通、梨樹各県  | 歩騎兵ノ一部行軍                   |
| 鉄嶺駐屯隊         | 自一月廿八日<br>至二月三日  | 鉄嶺出發、大甸、大家高力屯(一泊)、四寨子、劉家屯(一泊)後ハニ帰ル                             | 鉄嶺、開原、昌図、伊通、各県 | 歩兵ノ一部行軍                    |
| 独立守備第二大隊      | 自二月七日<br>至同 九日   | 郭家店附屬地ヨリ盆家店、西蘇家屯、赫爾蘇(一泊)、大孤家子、火石砬子、藍家屯(一泊)、小三台、一面城、四平街附屬地ニ至ル   | 梨樹及伊通各県        | 同                          |
| 同             | 自二月八日<br>至同 十日   | 開原附屬地出發、慶雲堡、猪家窩棚、通江口(一泊)、竜王廟、双樹子、大青堆子(一泊)、泉眼溝、東營盤、平頂堡、開原附屬地ニ帰ル | 開原、昌図、鉄嶺各県     | 同                          |
| 公主嶺騎兵聯隊       | 自二月十四日<br>至同 廿一日 | 公主嶺出發、買売街(一泊)、八面城(一泊)、八岔溝(一泊)、鄭家屯(二泊)、三棵樹(一泊)、東大平山(一泊)、公主嶺ニ帰ル  | 梨樹、昌図、遼源、懷德各県  | 騎兵一部行軍途中空砲発火演習及遼河水面上爆発演習施行 |

| 備考      |                 | 以上兩年分共一泊及一泊以上ノ行軍ニ付概記シタルモノニシテ附屬地附近ニ於テ常時施行セラルル行軍発火演習乃至射撃ニ関スルモノハ其度数渺カラサル処(当館ヨリ支那側ニ知照済)之ヲ省略セリ |
|---------|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 陸軍自働車隊  | 自二月十三日<br>至同十六日 | 開原鐵道附屬地、南城子間往復<br>同 地、貂皮屯間往復<br>同 地、昌圖城間往復                                                |
| 歩兵三十三旅団 | 自五月十四日<br>至同十五日 | 開原城附近                                                                                     |
|         | 開原県             | 將校約二十名ノ<br>幹部演習                                                                           |

八一八 五月十六日 石井外務大臣ヨリ  
大島陸軍大臣宛

満洲ニ於ケル我軍隊ノ附屬地外行軍演習ニ関スル件

政機密送第三六号

本件ニ関シ在鉄嶺領事代理ヨリ別紙写ノ通申越ノ次第有之候処同官ニ対シ回訓ノ都合モ有之候ニ付本件ニ関スル貴方御意見竝奉天公報ニ掲載セラレタル由ノ予告期日ニ関スル支那側トノ打合ノ事実如何ニ付御回示相成度別紙相添此段照会申進候也

註 別紙ハ前掲ノ大正五年五月一日付機密第二九号鉄嶺酒匂領事代理來信及附屬書写ナルニ付省略ス

スル件回答

大正五年六月七日

陸軍大臣 大島 健 一(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

五月十六日附政機密送第三六号ヲ以テ照会相成候満洲ニ於ケル我軍隊ノ附屬地外行軍演習ニ関スル件ニ就テハ当方ニ於テモ從來之カ為メ支那官民ノ誤解ヨリ紛擾ヲ惹起スルカ如キコトヲ予防スルコトニ努メ居候モ鐵道附屬地外ニ行軍演習ノ都度必ス支那側ニ予告スヘキコトヲ約諾スルハ教育上支障渺ナカラス實際ニ於テモ附屬地附近ニ於テ演習スル場合ニハ一回ノ演習中ニモ屢々其境界ヲ出入スルコトモ有之候ニ付鐵道附屬地ヨリ遠隔セル地方ニ予メ計畫セル行軍等ヲ実施スル場合ニ限り予告致居候而シテ予告期間ニ関スル件ニ就テハ支那側ヨリハ十日前ニ予告アリタク照会致來候ニ対シ当方ヨリノ回答ハ別紙往復書ノ通ニ候ニ付御承知相成度及回答候也

(附屬書一)

都第一八二号

大正三年十二月二日

一三 江口附近ニ於ケル日本守備兵ノ被害一件 (附) 八一八 八一九

八一九 六月七日 大島陸軍大臣ヨリ  
石井外務大臣宛

満洲ニ於ケル我軍隊ノ附屬地外行軍演習ニ関シ回答ノ件

附屬書一

大正三年十二月二日付奉天總領事ヨリ関東都督宛公信都第一八二号

日本軍隊ノ鐵道用地外行軍ニ際シ中国側ニ予告方ニ関スル件

二 大正三年十二月十七日付関東都督府參謀長ヨリ民政長官代理宛公信參發第五二七号  
日本軍隊行軍ノ予告方ニ関スル件

陸軍省 陸普第一八八五号

送達 満洲ニ於ケル我軍隊ノ附屬地外行軍演習ニ関

奉天總領事

関東都督宛

我軍隊ニシテ鐵道用地外行軍ニ際シ支那側ニ

予告方ニ関スル件

客月三十日附ヲ以テ支那側ヨリ別紙写ノ通り奉天省ニ於テハ盜匪ノ被害甚シク殊ニ奸黠ノ匪徒ハ往々軍人巡警ナリト仮称スル者モ有之為メニ地方民ニシテ外来ノ軍人巡警ニ会シ盜匪ナリト誤解スルコトアリトノ例ヲ挙ケ向後右誤解ヲ避ケンカ為メ本邦軍隊ノ鐵道用地外ニ行軍ヲ為ス場合ニハ十日前ニ予告アリタキ旨照会致越候ニ付テハ右ニ関シ御意見承知致度候間何分ノ儀御回示相成度此段申進候 敬具  
追テ別添支那側來翰中洮遼ノ日本軍ノ撤退交渉云々申居レルモ軍隊撤退ノコトハ未タ何等問題トナリ居ラサル次第ニ付為念申添候

(別紙)

拜啓奉天省ハ盜匪甚タ多ク掠奪事件屢々發生シ且狡黠ノ匪徒ハ往々軍警ニ仮装シ其真偽ヲ識別スル頗ル困難ナルヲ以テ各地軍警ハ營兵ノ服裝ニ同シキモノニ対シテハ頗ル厳密ニ詰問セリ又地方紳士人民ハ外来ノ軍警ヲ見レハ盜匪ノ仮

装モノナランコトヲ疑ヒ倉皇措処ヲ誤リ羣起シテ之ヲ抵禦スルニ至ル乃チ日本陸軍ノ鉄道附属地外ニ行動スルニ当リ予メ通知ヲ為サス故ニ之ヲ知ルハ已ニ期日ヲ過クルヲ以テ事後該地方ノ軍警ニ通達スルモ及フナク遂ニハ八面城ノ如キ誤解ヲ醸成シ洩遼日軍撤退ノ交渉ヲ發生スルニ至レリ前車ハ鑒トスヘク後患ハ宜シク防クヘシ若シ予メ之カ図ヲ為ササレハ将来恐クハ紛擾多カルヘシ依テ交渉員ニ命シ日本領事ト協議シ爾今日日本軍隊鉄道附属地外ニ出動ノ際ハ該地方ノ軍警ニ通達シ得ル余日アラシムル為メ必ス十日前ニ通知ヲ發シ以テ誤解ヲ生セサラシメ邦交ヲ固フスルヲ望ム旨上將軍ヨリ來翰アリシニ付右日本領事ト協議ノ上其結果ヲ報告スヘク巡按使ヨリ命令アリシニヨリ貴總領事ヨリ各守備軍隊ニ右実行方交渉ノ上回答アラシコトヲ請フ此ニ御健康ヲ祝ス

外交部特派奉天交渉員代理 祝 瀛元

大日本駐奉總領事 落合殿

民國三年十一月三十日

(附屬書二)

參發第五二七号

「之ハ落合總領事宛ノ回信ヲ添付スヘキ筈ナリシヲ間違ヘタルモノナルヘシ  
右回信写ハ予テ落合總領事ヨリ当方ヘ送付シアリ」

八二〇 六月十九日

石井外務大臣ヨリ  
在鉄嶺酒匂領事代理宛

我軍隊ノ附属地外行軍演習ニ関スル件

政機密送第一〇号

本件ニ関シ五月一日付機密第二九号貴信ヲ以テ御問合セノ次第有之候ニ付陸軍省ノ意嚮相尋ネ候処陸軍側ニ於テモ附属地外ニ行軍演習ノ為支那官民ノ誤解ヲ招キ延テ紛争ヲ惹起スルカ如キコトハ從來共之カ予防ニ努メ居ルモ右行軍演習ノ都度必ス支那側ニ予告スヘキコトヲ約諾スルハ軍隊教育上支障少ナカラス實際ニ於テモ附属地附近ニ於テ演習スル場合ニハ一回ノ演習中ニモ屢々附属地境界ヲ出入スルコトモ有之ニ付附属地ヨリ遠隔セル地方ニ予メ計画セル行軍等ヲ實施スル場合ニ限り予告シ居ル趣ニ有之候尚貴信末段本件ニ関スル支那側トノ往復トハ大正三年十一月卅日付ヲ以テ在奉天田交渉署長ヨリ我落合總領事ニ対シ十日以前ニ予告方申越アリタル當時関東都督トモ協議ノ上落合總領事ヨリ別紙写ノ通り田交渉署長宛回答シタル顛末ヲ指スモノ

一三 江口附近ニ於ケル日本守備兵ノ被害一件 (附) 八二〇

(記註外欄)

大正三年十二月十七日

関東都督府參謀長

民政長官代理宛

軍隊行軍ノ予告方ニ関スル件

本件ニ関シ十二月七日附機外第一七七号ノ一ヲ以テ御照会ノ趣了承鉄道附属地外ニ行軍等ヲ實施スルニ方リ支那官民ノ誤解ヨリ紛擾ヲ惹起スルカ如キハ我軍隊ニ於テモ甚ダ迷惑ニ感シ且遺憾トスル所ニ有之候間爾來軍隊ヲシテ成ルヘク支那官憲所望ノ期日前ニ通知シ得ル様取計ハシム可ク候得共教育ノ必要上時トシテハ俄カニ實施スルコトアルヘキヲ以テ一定ノ期日前ニ予告シ難キ場合可有之候間斯ル場合ニ於テハ支那官憲ニ於テモ所有方法手段ヲ講シ關係地方官民ニ周知セシメ誤解ヲ來ササル様為致度意見ニ有之候条可然御回答相成度此段及回答候也

追テ右予告ハ從來實施シ來リタル如ク鉄道附属地ヨリ甚シク遠隔セル地方ニ於テ行軍等ヲ實施スル場合ニ限り同附属地附近ニ於テ實施スル場合ニハ予告セサル儀ニ付為念申添候

(欄外註記)

ニ有之貴官御問合セノ客年一月十三日発行ノ奉天公報掲載ノ事項トハ右往復ノ次第ヲ掲載セルモノト被存候間右様御承知相成度將又先般自働車及飛行機演習ニ関シテハ右等演習ノ性質上特ニ支那官民ノ注意ヲ惹クヘキヲ慮リ成ルヘク附属地内ニ限定セントノ趣旨ニヨリ特ニ陸軍側ニ注意致シタル義ニ有之候ヘ共普通行軍演習ニ関シテハ前掲支那側トノ往復ノ趣旨ニヨリ附属地外ニ於テモ之ヲ行フコトニ当省ニ於テハ別段異存ナキ義ニ有之候間右様御承知ノ上今後我軍隊側ヨリ支那側ヘ知照方依頼有之候節ハ從來通り右知照方御取計相成度此段及回答候也

(別紙)

拝啓陳者客月三十日付貴翰ヲ以テ我駐屯軍隊ニシテ鉄道付属地外ニ行動スル場合ニハ十日前預告方ニ付御申越ノ趣致聞悉候右関東都督府ヘ申送置候処今般同府ヨリ回答有之候処ニヨレバ我軍隊ニ於テモ附属地外ニ行軍ヲ為スニ際シ貴邦官民ノ誤解等ニヨリ紛擾惹起スルガ如キハ遺憾トスル処ニ有之候ニ付將來共可成貴方ノ希望ニ副フ様取計ハシムベク候ヘ共教育上ノ必要ニ依リ時トシテハ俄ニ行軍ヲ實施スルコトアルベキヲ以テ一定ノ期日前ニ予告シ難キ場合モ可

有之候間斯カル際ニハ貴邦官憲ニ於テモ所有方法手段ヲ講  
ジ關係地方官民ニ周知セシメ誤解ヲ來タサザル様御手配相  
成候様致度尚ホ右行軍ヲ貴方ニ予告スルコトハ從來実行シ  
來レル如ク鉄道附屬地ヨリ甚遠隔セル地方ニ行軍スル場合  
ニ限ルモノニシテ其ノ附屬地附近ニ行ハルモノハ予告ヲ  
行ハザルモノナル旨申添候ニ付右様御了知相成度此段回答  
申進候也

大正三年十二月二十八日

大日本帝國奉天總領事 落合謙太郎

奉天交涉署長 田 潜殿

註 右ハ大正四年二月五日附奉天總領事來信公第一九号添付甲  
号写 (落合總領事ヨリ田交涉署長宛書翰) ナリ

八二一 十月二十日 在長春山内領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

遼陽駐屯第十七師団機動演習ニ関スル件

發第一四三号 (十月三十日接受)

大正五年十月二十日

在長春

領事 山内四郎(印)

テ代価ノ仕払ヲ辞シタル者モアリ要スルニ演習挙行ノ結果  
ハ附近支那人ヲシテ日本軍隊ノ真価ヲ知悉セシムルト共ニ  
一般邦人ニ對スル感想上多大ノ影響ヲ与ヘタルモノト思考  
被致候而シテ演習中奉天、吉林兩督軍ノ參謀長等ヲ始メ支  
那文武官觀戰シ彼等ニ對スル我待遇モ至テ懇切丁寧ナリシ  
結果彼等ノ満足多大ナリシ如ク尚演習終了ノ前日ニハ發第  
一四四号報告ノ通當館ニ於テ盛大ナル宴会ヲ催シ当地並ニ  
奉天、吉林ノ文武官ヲモ招待シ又翌十七日ニハ觀兵式並ニ  
式後ノ宴会及中村關東都督ノ催サレタル晚餐会アリ支露ノ  
文武官之ニ招待ヲ受ケテ頗ル盛会ニ有之是等各方面ノ交歓  
ハ今回ノ演習ト相待テ彼我國交上頗ル好影響ヲ与ヘタルモ  
ノト存セラレ候

右報告申進候 敬具

八二二 十一月一日 高山關東都督府陸軍參謀長ヨリ  
幣原外務次官宛

長春附近ニ於ケル機動演習ノ影響ニ関スル報

告書送付ノ件

關都參謀第參卷式号

特号送付ノ件通牒

一一 三江口附近ニ於ケル日本守備兵ノ被害一件 (附) 八二二

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

本月八日ヨリ同十七日ニ亘リ当地公主嶺間ニ於テ駐遼陽第  
十七師団ノ機動演習施行サレ候ニ就テハ我在留民ニ於テハ  
滿鉄側始メ予メ機動演習係ヲ設ケ交通ノ便宿舎ノ配賦兵士  
ノ慰勞其他一切ノ設備ヲ為シテ歡迎ノ意ヲ表シ候処当地方  
ハ滿洲南方ト異ナリ日本軍隊ノ權威ヲ周知セス一般ニ平素  
ヨリ排日気分ヲ抱持セル土地柄故支那側ニ関シテハ予メ官  
憲側ト打合セノ上道尹及県知事ヨリ告諭ヲ發セシメ演習ノ  
性質ヲ了解セシムルニ努メタルモ尚ホ何等カ日本ニ於テ高  
圧手段ヲ弄スルモノノ如ク思惟シ或ハ使用車馬備入等ノ幹  
旋ヲ為セル自國官憲ノ態度ヲ攻撃スルアリ或ハ支那軍隊通  
過ノ跡ノ如ク慘狀ヲ蒙ルベシト懼レ或ハ日支兩軍間ニ衝突  
アルベシ等靡語風説ヲ為シ甚タシク杞憂ニ驅ラレ其結果附  
近村民ニシテ遠ク避難スル者モ少ナカラザリシ模様ニ有之  
候処警察官ヲ宿營地ニ派シテ懇々諭告セシ結果漸ク安堵シ  
弥々演習開始サルルニ及ンデハ我軍規ノ嚴肅行動ノ機敏武  
器ノ充實等ニ驚キ薪炭馬糧及其宿料等些末ノ代価ニ至ル迄  
悉ク之カ仕払ヲ為スヲ見甚敷驚嘆セルガ如ク久シク支那軍  
隊ノ暴戾ニ馴レタル村落農民ノ如キハ後難アラン事ヲ恐レ

大正五年十一月一日

關東都督府陸軍參謀長 高山 公 通

外務次官 幣原喜重郎殿

別冊特第一二号为参考及送付候也

(別紙)

秘

特第一二号

大正五年十一月一日

關東都督府陸軍參謀部

目次

長春附近ニ於ケル機動演習ノ影響

本年十月中旬公主嶺——長春間ニ於テ施行セシ我駐劄師団  
ノ機動演習カ該地方面ノ支那官民ニ与ヘシ好感ニ関シ諜知  
シ得タル所概ネ左ノ如シ

一、本演習ヲ実視セル支那文武官等ハ今更ノ如ク我軍隊ノ  
堂々タル威武ヲ激賞シ日露——日独ノ兩戰役ニ於ケル日  
本軍ノ勝利故ナキニ非ストナシ自國軍隊ノ及ハサルコ  
ト遠キヲ自覺セルカ如シ

二、我軍隊ノ真相ヲ知ラサル一般人民等ハ帝國軍隊ヲ目シテ恰モ自國軍隊ノ夫レト同一視シ為ニ演習ノ当初大ニ不安ノ念ヲ抱キツツアリシノミナラス鄭家屯事件ニ引続キ喧嘩蒼事件アリシヲ耳ニセル彼等ハ又モ日支兵ノ衝突ヲ惹起スルヤモ計ラレストテ危懼シ或ハ日本ハ演習ヲ名トシテ滿洲ヲ併合セントスルニ非ルカト杞憂シ避難ノ準備ヲナシタルモノサエアリ加フルニ平素排日ノ思想ヲ抱持セル一部ノ官民等ハ支那当事者カ今回ノ演習施行ニ承認ヲ与ヘタルニ對シ領土主權ノ侵害ヲ許容セルモノナリト攻撃シ又日本ハ事々ニ高圧的手段ヲ弄スルモノノ如ク即斷シ日本軍隊車馬傭入等ノ斡旋ニ就テモ多少惡感ヲ抱キ居リシモノノ如シ然ルニ其ノ後親シク我軍隊ノ行動ヲ實見又ハ聞知スルニ及ヒ其ノ疑惑ハ忽チ氷解シ我軍軍紀ノ嚴肅行動ノ敏活、武器ノ精銳等一トシテ頑迷ナル彼等ヲ驚カシメサルモノナク遂ニハ婦女子ノ如キモ戸外ニ出テテ演習ヲ見物シ宿營中ニ於テハ兵卒ニ對シ言語ヲ交ユルモノサエアルニ至レリ又宿料、薪炭、馬糧等使用物資ニ對シテ代金ヲ仕払ヒタルハ支那軍隊ノ暴戾ニ馴レアル農民等ヲシテ更ニ

敬服、欽慕ノ念ヲ惹起セシメタリ  
之ヲ要スルニ本演習ハ未タ日本軍隊ノ真価ヲ知ラサリシ長春方面ノ支那官民ニ對シ我軍隊ノ真価ヲ示シ有形無形上多大ノ好感ヲ与ヘシコト疑ヒナク從テ將來邦人ノ發展上ニ裨益スル所亦蓋シ淺少ナラサルヘシ

八二三 十一月四日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

日本陸軍各武官鄭家屯駐在軍隊巡視ニ關スル

件

送第五号 (十一月十四日接受)

大正五年十一月四日

在鄭家屯

副領事 岩村 成 允(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

公主嶺駐在滿洲獨立守備隊司令官陸軍少將福原鉄太郎氏ハ開原駐在同第二大隊長中佐渡部勇氏ヲ隨ヘ鄭家屯駐在所屬部隊巡視ノ為メ十月廿五日当地ニ到着シタルカ同司令官最初ノ巡視ナルヲ以テ当地守備隊及派遣隊ハ公式ニ依リ市外

右為御參考及御報告候 敬具

写送付先 在支那公使

八二四 十一月九日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ  
寺内兼任外務大臣宛

鄭家屯及附近ニ於ケル我兵力ニ關スル件

機密送第五号 (十一月二十日接受)

大正五年十一月九日

在鄭家屯

副領事 岩村 成 允(印)

外務大臣伯爵 寺内正毅殿

本件ニ關シ当地駐在ノ我陸軍側ニ就テ聞ク所ニ依レハ本年夏日支兩國兵衝突以前迄ハ在開原鐵道守備第二大隊第三中隊当地ニ駐屯セシモ其ノ内一箇小隊ヲ八面城(四平街ノ西五十支里余)ニ置キ残り二箇小隊(守備兵ハ三箇小隊ヲ以テ一箇中隊ヲ編成ス)ノ内ヨリ通伝哨ヲ三江口(鄭家屯ノ東南五十五支里)及曲家店(四平街鄭家屯間ノ約中央)ニ置キ二十三名宛ヲ分派シ居リタル為實際当地ニ於ケル我兵力ハ將校以下約六十名ナリシカ前記事件勃發ノ際三江口曲家店ニ分派セシ守備兵ヲ当地ニ引上ケ八面城ニアリシ小隊數ナル趣ニ有之候

ヲ三河口ニ移シ八面城ニハ別ニ一箇中隊ノ守備兵ヲ配置シ  
尚公主嶺ニ駐在セル騎兵聯隊(一箇中隊ヲ欠ク)及鉄嶺ニ  
駐屯セル歩兵第四十一聯隊ノ一箇大隊ヲ当地ニ移セシ為一  
時当地ニ於ケル我兵力ハ

騎兵一箇聯隊 (一箇中隊ヲ欠ク)  
(聯隊長松村中佐)  
歩兵一箇大隊 (第四十一聯隊第三大隊)  
(大隊長少佐内藤貞一)  
守備兵一箇中隊 (三河口ニ分派セル一箇小隊ヲ除ク)  
憲兵將校以下十名

ナリシカ右ノ内騎兵ハ九月七日少数ノ伝騎ヲ残シテ公主嶺  
ニ引上ケシヲ以テ現在鄭家屯及四平街鄭家屯間ノ沿道ニ配  
置セル我兵力ハ左ノ如シ

鄭家屯歩兵一箇大隊 (大隊長少佐内藤貞一)  
(以下四百五十一名)  
守備兵一箇中隊 (中隊長井上太鬼智)  
(以下約百名)  
騎兵一箇少隊 (約二十名)  
憲兵 十名 (隊長中尉坂元俊馬)  
(下士二上等兵七)  
三河口守備兵一箇少隊 (將校以下四十一名)  
曲家店守備兵 (下士以下十二名)  
八面城守備兵一箇中隊 (曲家店ニ於ケル十二名ヲ欠ク)

外務大臣子爵 本野一郎殿

鄭家屯及附近ニ於ケル我兵力ニ関シテハ同十一月廿四日付  
送第一二号ヲ以テ及御報告置候処今般当地派遣隊ニ就キ聞  
ク所ニ依レバ十二月ニ初年兵約三百名来着スヘキ筈ノ処目  
下当地ハ特ニ不穩ノ形勢モ無ク又兵營ノ設備其他新兵教育  
ノ機關完全ナラサルヲ以テ右初年兵ハ鉄嶺聯隊ニ入營ノ上  
教育スルコトニ變更セラレタル結果十一月六日内地ニ帰還  
シタル歩兵二百四十一名ハ其儘補充セラレザルコトナリ  
当地兵力ニ不足ヲ感スルヲ以テ従来市街主要道路ニ配置シ  
タル衛兵ヲ撤去シ兵營内ニ集合セシムルコトニ決定シ同隊  
長ト遼源県知事巡警局長及商団長ト協議ノ上別紙写ノ如キ  
協定書ヲ作り我憲兵指導ノ下ニ支那巡警百七十五名商団二  
百名ヲ配備警戒スルコトト定メ十二月九日ヨリ実行スルコ  
トト致候趣ニ有之候尚協定書ハ前記關係支那官憲ト熟議ノ  
上先方ノ意見ヲ聴キ毫モ異存ナキ程度ニ於テ協定シタルモ  
ノナル趣ニ有之小官カ他用ヲ以テ県知事ニ面会ノ際知事ハ  
我巡警及商団兵カ日本衛兵ニ代リ市街ヲ警戒スルコトナ  
リタリトテ満足致居候様子ニ見受ケ候

右及報告候 敬具

太平河守備兵 (下士以下十二名)

旧四平街守備兵一箇少隊(太平河ニ於ケル十二名ヲ欠ク)

合計 約八百三十名

右ノ内本月末除隊スヘキ満期ノ歩兵下士以下二百四十一名  
ハ已ニ十一月六日輸送指揮官歩兵大尉末武三爾引率ノ下ニ  
鄭家屯ヲ出発シ聯隊ノ原駐屯地タル福知山ヘ帰還シ其レト  
交代スヘキ初年兵約三百名ハ十二月二十日頃鄭家屯ニ来着  
スヘキ予定ニ付右初年兵ノ到着スル迄ハ前記兵力中ヨリ帰  
還セシ兵數ヲ減少シ居ル次第第二有之候  
右為御参考及報告候 敬具

写送付先 在支那公使 在奉天總領事 在鉄嶺領事

八二五 十二月十二日 在鄭家屯岩村副領事ヨリ  
本野外務大臣宛

鄭家屯ノ我兵力減少並市街警戒配備變更二関

スル件

機密送第一三号 (十二月十八日接受)

大正五年十二月十二日

在鄭家屯

副領事 岩村 成允(印)

写送附先 支那公使 奉天總領事

(別紙)

写

協定

一、外衛兵連絡巡察ハ毎日午前九時午後二時ヲ基準トシ差  
遣ス依テ巡警局長及商団長ハ之ニ要スル巡警商団兵ヲ当  
該時間前ニ憲兵隊ニ差出ス事

二、外衛巡警及商団ノ交代ハ毎日午前八時午後二時トシ其  
方法ハ巡警局長商団長ニ於テ適宜之ヲ定メ憲兵指導ノ下  
ニ之ヲ行フモノトス下番巡警及商団ノ指揮官ハ交代後一  
時間内ニ異状ノ有無ヲ憲兵隊長ニ筆記報告ス

三、毎週土曜日午後一時巡警局長商団長ハ憲兵隊ニ来リ警  
察事務并ニ市街警戒上ニ関スル憲兵隊長ノ指示ヲ受クル  
モノトス

四、憲兵隊長巡警局長及商団長ハ毎週一二回外衛兵線ヲ巡  
察ス其時刻ハ憲兵隊長ヨリ指示ス

外衛巡警商団ノ守則

一、支那軍隊及賊徒ト認メラルルモノハ成ルヘク遠方ニ止  
メ迅カニ日本憲兵隊長ニ報告シ指示ヲ希フコト

一一 三江口附近ニ於ケル日本守備兵ノ被害一件 (附) 八二五

七七四

但シ予メ支那軍隊ノ通過ヲ許可セルモノハ此限ニアラス

- 二、单独支那軍人及支那官吏并ニ有力ナル市民及其家族ノ通過セシ時ハ毎日交代時ニ憲兵隊長ニ筆記報告スルコト
- 三、憲兵隊長ノ臨時巡察并ニ憲兵巡警及商団ノ連絡巡察ニ

ハ各外衛兵トモ異情ノ有無ヲ口頭ニテ報告スルコト

四、隣接外衛巡警商団ハ時々連絡スルコト

## 事項一二 奉天榭原農場紛争ニ関スル件

八二六 二月三日 石井外務大臣ヨリ  
在奉天矢田總領事代理宛

榭原農場買戻契約附帯条件履行ノ模様ナキニ  
付其後ノ成行問合ノ件

政機密送第九号

榭原農場ニ関スル件

客年十二月二日付公第二九七号貴信ヲ以テ榭原農場買戻契約御送付有之候処此ノ程本件関係者細梅代議士来談ニ依レハ其ノ後支那側ニ於テハ一向同契約附帯条件ノ履行ニ務ムル模様ナク果シテ何日之カ履行ヲ見ルニ至ルヘキカ予想モ着キ兼ヌル始末ニ付榭原側ニ於テモ此ノ上空シク其履行ノ日ヲ俟チ農場ノ経営ヲ等閑ニ附スルハ如何ニモ忍ビ難キ所ナルヲ以テ到底支那側トノ話合急ニ埒明カサルニ於テハ已ムヲ得サルニ付漸次小作契約ヲ結ビ農場経営ノ歩ヲ進ムルノ外ナキ意嚮ナル趣ニ有之候斯クテハ折角支那側トノ間ニ解決ノ端ヲ開キタル本件モ再ヒ紛紜ヲ醸スニ至リ他方面ニモ面白カラサル影響ヲ及ホス懸念モ有之次第ニ付速ニ本件

一一 奉天榭原農場紛争ニ関スル件 八二六 八二七

ノ円満ナル解決ヲ見ルニ至ルコト双方ノ為メ極メテ得策ト思考セラレ候本件ハ其後如何ノ成行ニ相成居レルヤ其ノ実情承知致度ニ付何分ノ儀御回報相成度此段申進候也

八二七 二月二十五日 在奉天矢田總領事代理ヨリ  
石井外務大臣宛

榭原農場問題円満解決シタルニ付其交渉経過  
報告ノ件

附屬書一

奉天省教育諮議官曾有翼等ノ撫順興京間輕便

鉄道敷設願書

二 財政庁実業主任ヨリノ右鉄道敷設許可証

三 右鉄道契約書

四 顧問招聘契約

五 会社創立者ノ利得ニ関スル契約

六 洪憲元年二月二十一日附趙藩陽泉知事ヨリ原

口聞一宛書翰

細梅三郎ノ水田一百町商租ニ関スル件

七 洪憲元年二月二十二日附張煥柏ヨリ原口聞一

宛借用証

日本金二万円借用ノ件

七七五